

平成23年度第1回石狩市行政評価委員会議事録（要点筆記、委員長署名方式）

日 時：平成23年4月15日（水） 10:00～

場 所：石狩市役所3階庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
委員長	松井 義孝		石狩市長	田岡 克介
副委員長	長谷部 清		（事務局）企画経済部長	佐々木 隆哉
委員	岩崎 雄三		（事務局）企画課長	松田 裕
委員	堀内 秀和		（事務局）企画課企画担当主査	佐々木 大樹
委員	堀 弘子	×	（事務局）企画課企画担当主査	森本 栄樹
			（事務局）企画課企画担当	笠井 剛

傍聴人：0名

1 開会

2 委嘱状の交付

3 市長挨拶

【田岡市長】

これから二年間、宜しくお願いします。

この度の被災地復興への議論の中で、新しい「東北モデル」イコール「日本の次の時代のモデル」を目指してほしいという菅総理のご発言があったのですが、社会全体、世の中全体が、従来のモデル、仕組みでは、なかなか立ち行かなくなっている現状の中で、まちづくり・地域づくりも大きく発想の転換をしていかななくてはならないと思っております。

そして、発想の転換以前に、まず、「どれだけ多くの人の意見を聴くことが出来るか」ということも非常に重要となっております。

市では自治基本条例という条例をスタートさせ、市民の皆さんとの協働により、「お互いに責任を持って、まちづくり・地域づくりに取り組んで行こう」という仕組みづくりを進めてきております。これまでも、非常に多くの方からの有意義なご意見や、活動への参加を頂いてきました。この仕組みを私共は大切にしたいと思っております。

この行政評価委員会においても、専門家の方や市民の代表の方から意見として頂戴し、新しい時代感覚の中における事業評価を行っていかなくてはならないと思っております。

また、平成19年度に総合計画基本構想と戦略計画を策定し、今年度、この総合計画戦略計画の後期見直しを行うこととしていますが、石狩は、ここ20年から30年間の開発型、

人口増加型の高度成長期を継承するような社会構造に向かって、確実に人口が増え、作業力がつき、地域は活性化してきているということが言えると同時に、一方でその時代で働いていた皆さんが高齢化に向われているというのも事実でございます。

このような背景を踏まえ、総合計画において、例えば、「福祉型のまち」にしていくのか、「産業進展型のまち」にしていくのか、「それらを両方持つまち」にするのか、或いは「一次産業に軸足を持ったまち」にするのかなど、石狩特有の多機能なまちと言いましょか、産業だけではなく、地形的な問題を含めた中で、ランドデザインを思考していくことが必要であり、この行政評価の成果が、次の総合計画へ反映されていくと言う意味で、非常に大切な段階に来ているのではないかと考えております。

行政評価を進めていく中で、この行政評価委員会のほかにも、行政評価会議などの庁内組織もありますので、時には、それら組織と連動しながら、様々な形でご意見を頂き、行政運営に反映していきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

また、行政評価を次年度予算にどう連動させていくかという命題もあります。予算の査定や様々な予算編成の過程において、絶え間ないこの行政評価の意見をどう反映させていくかという事については、予算編成に間に合わせるためにも、評価結果を出すタイミングや評価作業のスピードを更に上げる必要があるなど、正直、まだ試行段階と言っていいほど、その機能の発揮に至っていません。

事業の重要性、必要性や、予算を組む過程で、市民の目線を入れるなど、色々な取り組みを行ってきておりますが、一番予算に関わっている担当職員に行政評価の意図が、まだ伝わっていないという問題もあります。

これは内部の問題ですので、私共がこういった評価を出した、委員会からはこのような評価を頂いたということで、職員の内部で積み上げてはいるのですが、同じ濃度で下の者にフィードバックされていないと言う問題も市長として感じておりますが、これについては、担当部においても努力はしているのですが、予算と言うものが、財政課、或いは、市長に向かって縦方向に動いており、予算書という形でしか返ってこない状況にあります。

この事業評価の結果をしっかりと職員に見させることによって、また翌年の予算編成に対する意識の変化が出て来るのではないかと考えておりますので、私どもの責任として予算反映と、職員に行政評価を浸透させると言う事を宿題とさせて頂ければと考えております。

皆さまには、タイトなスケジュールの中で評価をしていただくことになり、お忙しい中ご苦勞をお掛け致しますが、宜しくお願いいたします。

4 事務局紹介

5 委員自己紹介

6 委員長の選任

岩崎委員より、事務局からの提案を求める。 (各委員了承)

事務局提案「本市の総合計画策定審議会の委員として、本計画の策定段階から実質的に携わって頂いた、松井委員を委員長として推薦。」

(各委員了承) 松井委員が委員の互選により委員長に選任。

7 副委員長の選任

長谷部委員が松井委員長の指名により副委員長に選任。

8 委員長・副委員長挨拶

9 審議

【松井委員長】

市長が申し上げましたように、地域、市民と市が協働で作り上げていく事が一番大事な事だと思えますし、この行政評価が、次の総合計画へ反映されていくと言う視点としましても、長いビジョンを意図しながら進めて行きたいと思えます。宜しくお願い致します。

それでは、会議を進めます。

はじめに、今後の進め方について、事務局より資料が提出されておりますので、ご説明願います。

【事務局：笠井主任】

- ・配布資料の確認
- ・「第1回石狩市行政評価委員会提出資料」(委員会の概要、スケジュール等)の説明
- ・「施策評価シート」「事業評価シート」の説明

【松井委員長】

只今の説明に対して、質問等ございませんか。

【岩崎委員】

今の説明の中で、今までは、「最終評価を行評価委員会」が行っていたものを今年度からは、庁内組織の「行政評価会議が最終評価」を行うということでしたが、この行政評価委員会で行う評価と最終評価が変わるということも当然予想されると思われませんが、評価が変わってしまうことに対して、この行政評価委員会としては、どのように捉えていいのでしょうか。

【事務局：松田課長】

平成19年度から、施策評価を実施し、平成20年度までは、本委員会で審議する施策のみの評価を実施していました。それ以外の施策については評価を実施していませんでしたが、本来であれば、全施策全事業について、評価するべきということから、平成21年度より、本委員会の対象施策以外の施策についても内部で評価を行い、全施策全事業の評価を実施しています。

この全施策全事業の評価を本委員会で行うということは、時間的なものなど、実質、不可能な状況であることと、全施策を評価するという点では、全庁的に一定程度の方向性を整理、確認する作業が必要であるとの考えから、これまでの本委員会による最終評価から、全庁的な組織の行政評価会議において、最終評価を行うこととしました。

この行政評価委員会の評価につきましては、「外部の視点を入れる手段」として、パブリ

ックコメントと同様に外部の視点で、施策の評価にメスを入れて頂くと言う位置付けで、これまでと同様に関わって進めていただき、本委員会による評価意見とパブリックコメントで寄せられた意見を十分に配慮し、最終評価を行って参ります。

【松井委員長】

他にございませんか。

続きまして、今年度の評価対象施策の選定について、事務局より案がありましたら、説明をお願いします。

【事務局：笠井主任】

「5つのテーマ」に関連する31施策のうち、未評価となっている7施策について事務局より提案。

「公共交通環境の充実」

「情報通信網の整備」

「保健・医療の充実」

「観光の振興」

「公園・緑地・水辺の整備」

「景観づくりの推進」

「青少年の健全育成」

【松井委員長】

それでは只今のご説明につきまして、質問、意見等ございませんか。

【各委員】

なし。(了承)

【松井委員長】

それでは今年度の評価については、事務局から提案のありました7施策としたいと思えます。皆様のご協力宜しくお願い申し上げます。

最後に事務局から何かありましたらお願いします。

【事務局：松田課長】

皆さまに二点ほど本委員会での取り扱いを確認させていただきたいと思えます。

一点目に、市の審議会等ガイドラインでは、「本委員会が同意した場合、傍聴者が書面で感想・意見を提出できる。」こととなっておりますが、これまで、本委員会では、意見などを本委員会では申し受けず、全てパブリックコメントを通して集約するという事で取り扱ってきました。

二点目に、議事録の作成についてですが、「全文筆記」、「要点筆記」、「録音テープ」等の記録方式がございますが、これまで、本委員会では、「要点筆記」を採用し、事務局で作成した議事録を各委員の皆様にご確認いただき、最終的に委員長の署名により、内容を確定

し、公表してきました。

これまでの取り扱いも参考にさせていただき、この二点について、今後の本委員会での取り扱いを皆さまに確認を頂きたく思います。

【松井委員長】

傍聴者と議事録作成につきまして、本委員会での取り扱いをどのように定めるかという事ですが、これまでの方法を世襲するという考え方もあると思いますが、皆さんは如何でしょうか。

【岩崎委員】

これまでと同じ取り扱いで良いと思います。

【松井委員長】

皆さんもこれまでと同じということによろしいでしょうか。

【各委員】(了承)

【松井委員長】

それでは、傍聴者の意見の取扱い及び議事録作成についてはこれまでのルールを世襲するという事で決定したいと思います。宜しくお願い致します。

それでは本日の委員会はこれで終了いたします。有り難うございました。

平成23年 7月 1日 議事録確定

石狩市行政評価委員会 委員長 松 井 義 孝